

鹿屋体育大学グローバルスポーツリーダー育成事業報告 ～ Canada ニューイヤーズクラシック・バレーボールトーナメントに参加して～

坂中 美郷*, 濱田 幸二*

1. 期 日

平成27年12月30日～平成28年1月12日

2. 場 所

カナダ／アルバータ州エドモントン市

3. 参加者

選 手：鹿屋体育大学女子バレーボール部23名

監 督：濱田 幸二（鹿屋体育大学）

コーチ：坂中 美郷（鹿屋体育大学）

帯同審判員：美坂 健太郎（大島高校教諭）

トレーナー：美坂 綾（NPO 法人 ASA 奄美ス
ポーツアカデミー）

4. 大会及び練習会場

会場のアルバータ大学は、1908年に設立された歴史ある大学であり、35,000人もの学生が200以上の学部プログラム並びに170以上の大学院プログラムを受講している。体育学部を有しており、1983年に開催されたユニバーシアードの会場となった大学である。



写真1. メイン会場



写真2. 広い廊下を挟んで10個の体育館がある



写真3. 廊下と体育館の間に壁や窓はなく吹き抜けになっている

5. 参加チーム

アルバータ大学, レジャイナ大学, カルガリー大学, モントリオール大学, サスカチュワン大学, 鹿屋体育大学の計6チームであった。

* 鹿屋体育大学スポーツ・武道実践科学系

6. 遠征スケジュール

表1. 遠征スケジュール

12月30日	鹿屋出発
12月30日	アルバータ大学到着 ホームステイ先へ
12月31日	Practice
1月1日	Practice
1月2日	Match
1月3日	Match
1月4日	Match
1月5日～7日	Practice
1月8日	UBC 訪問
1月9日	バンクーバー市内観光
1月10日	出発
1月12日	鹿屋到着



写真5. バレーボール教室後の集合写真

ていただいた。知る限りの英単語を繋げてコミュニケーションを取り、バレーボールを通じて楽しい時間を共有することができた。子どもたちは一言も聞き漏らしたくないという前のめりの姿勢で学生の話聞き、練習内容が理解できなければすぐに質問をするという積極的な姿勢が大変印象的であった。

7. 大会結果

表2. 大会結果

1月2日	○3—0	VS レジャイナ大学
1月2日	○3—1	VS アルバータ大学
1月3日	○3—0	VS カルガリー大学
1月4日	○3—1	VS モントリオール大学

結果は4戦全勝で優勝であった。

8. その他

(1) バレーボール教室

アルバータ大学バレーボール部のジュニアクラブチームの子どもたちを対象にバレーボール教室を開催し、鹿屋体育大学の学生が講師を務めさせ



写真4. ウォーミングアップの様子

(2) コーチング研修

アルバータ大学のローリー監督と打ち合わせをする中で、バレーボールに対する情熱や学生に対する愛情を強く感じた。また、挨拶や規律など、練習以外のことについて厳しく指導されていることも、学生の態度から感じ取ることができた。これらは、ローリー監督が日本へバレーボールのコーチング研修で訪れた際に、日本人から学んだ



写真6. ローリー監督（写真左）と

ことだという。

ローリー監督からコーチングについて多くのことを吸収したかったが、英会話の能力が乏しいことにより、コミュニケーションがうまく取れずに苦勞した。英語でのコミュニケーション力をつけることが自身の今後の課題である。

(3) ホームステイ

学生の宿泊は全てホームステイであり、ホストファミリーの方々に大変お世話になった。アルバータ大学の選手が一人暮らしをしているアパートにお世話になるケースもあったため、海外の大学生の暮らしを共有することができ、学生にとって貴重な体験となったであろう。課題はやはり英語力が未熟によりコミュニケーションがうまく取れないことであった。言葉が通じなくても物怖じしない度胸は身についたが、英語が上達することによりコミュニケーションが格段にアップすることは、学生も実感したと思われる。

(4) マーク・テナント氏との出会い

元サスカチュワン大学の教授であり、元FISUバレーボール役員マーク・テナント氏がフェアウェルパーティーに参加して下さり、濱田監督との久々の再会を喜んだ。両氏は過去のユニバーシアード大会を通じて交流があり大変親しい間柄である。バレーボールにおいて、カナダの大学生



写真7. マーク・テナント氏（写真左）と

と日本の大学生の交流を始めた第一人者でもある。鹿屋体育大学の学生に対して、その歴史について話をしていただいたことが大変有難く、意義のある時間となった。これからも鹿屋体育大学とカナダの大学が友好を深められるよう努力するという話でパーティーが締めくくられた。（写真7）

9. まとめ

今回の海外遠征の目的は下記の3つであった。

1. 時差や通常的环境と違う場所でコンディションを整え、ベストパフォーマンスを発揮出来るように自己管理を行い活動する。
2. ホームステイプログラムを通して、英語によるコミュニケーション能力を向上させ、グローバル人材育成に繋げる。
3. アルバータ大学の学生と交流することで、海外の大学生が自身のキャリアをどのように向上させているのか情報交換をする。



写真8. フェアウェルパーティーでの団らん



写真9. パーティー後に記念撮影

この3つの目的の達成度合いは、2名ほど体調を崩した学生がいたことから、全員が常にベストパフォーマンスで試合に臨むことは今後の課題として挙げられた。コミュニケーション能力の向上と学生間交流に関しては、帰国する時の学生の明るい表情から100%以上達成されたと思われる。また、グローバル化が推進され、国際性を備えたリーダーを養成する上で、今回の海外遠征は大変意義のあるものとなった。

このような貴重な体験が出来たことは、アルバータ大学のローリー監督ほかスタッフの方々、ホームステイファミリーの方々、鹿屋体育大学スポーツ振興教育財団の多大なご協力があった実現することができた。この場を借りて深く感謝申し上げます。この経験を生かして、更なる国際交流の場を広げ、国際的に活躍する学生の育成に励みたい。

以上